

# 薬の供給不足、影響長期化

## 函館薬剤師会「現状に理解を」

ジェネリック医薬品(後発薬)メーカーの不正問題に端を発した医薬品の供給不足によって、道南でも影響が長期化している。函館薬剤師会(熊川雅樹会長、会員431人)でも、患者に説明をしながら、メーカーが異なる同じ成分の薬に置き換えるなどの対応が続く。市場の安定化には1年以上を要するとみられ、同会は現状への理解を求めている。

(今井正一)

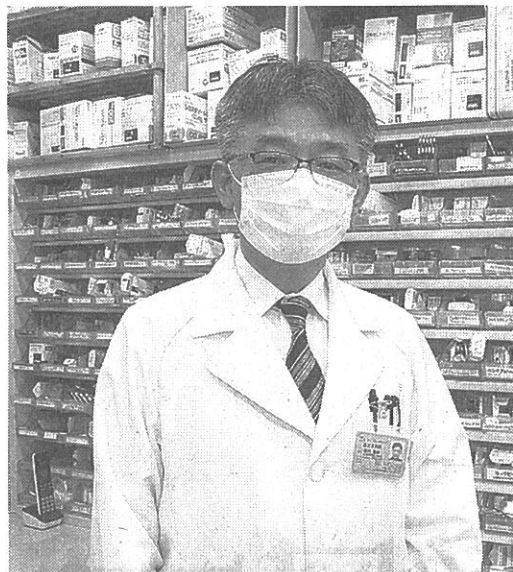
供給不足は2020年に福井県の後発薬メーカーが製造した薬に睡眠導入剤の成分が混入し、健康被害が発覚し、2人が死亡したことを受けて、その後別のメーカーでも国への届け出と異なる工程での製造が明らかになるなど、製造管理や品質管理の問題が相次いで判明。複数社が業務停止処分を受け、点検などのため、他メーカーの製造ラインにも影響が出た。厚生労働省は昨年12月時点で3000品目以上の製品に影響が生じているとしている。同会によると、医薬品市場の8割が後発薬に切り替わっているとされ、数社しか手掛けている後発薬で1社の製造ラインが止まると流通量に与える影響は大きく、市場の不足分を別メーカーが増産することも難しいという。熊川会長(60)は「食料品と違い、市場で使われる量に対し

て、大量には製造されていない。供給不足はすぐには戻らない」と話す。

熊川会長が経営するおおい薬局松風店は市内各病院の処方箋を受け付けるため常時約200品目を扱うが、流通が回復したのも含めてこれまでに3割程度の品目で不足があり、出荷調整が続く薬もある。同じ

成分を使う別メーカーの後発薬に切り替えたり、先発薬を含めて対応するが、これまで使用してきた薬とメーカーが異なることを不安視する患者もいるため、説明をしながら理解を求めている。

熊川会長は「少しずつ改善はしてきているが、まだ1年以上供給不足は続く」と



医薬品供給不足への理解と協力を呼び掛ける熊川会長

言われている。ご迷惑を掛けることになるが、供給不足の現状にご理解とご協力を願いたい」と話している。